

～～第8260回～～

播隆祭・槍ヶ岳

～H29. 9. 1-3～

今年の播隆祭のコースは例年と変わって、「表銀座コース」を歩くことになった。一日目は中房温泉から燕山荘を経て大天井岳に登り、大天井ヒュッテに一泊。翌日は東鎌尾根を登って槍ヶ岳山荘に向かう。二日間とも歩行8時間超のタフなコースになる。今年の参加メンバーはワンゲル10名と県岳連の会員4名の計14名。前日の夜10:00に静岡駅前を出発し、途中の梓川SAで仮眠をとる。中房温泉には未明に到着。前々日までの天気予報は良くなかったが好転した。合戦尾根は急登と言われているが、嫌いな登山ではない。適当な休憩ポイント、整備された登山道は歩きやすい。5:30に出発して、8:40合戦小屋に着く。9月入った平日だが登山者は多い。合戦小屋から1時間ちょっとで燕山荘に着く。晴れ間が出ていたが、期待していた槍の姿は見えない。仕方がない、雨に降られないだけましか。燕岳が特徴のある山容を見せているが、今回は寄らないことになった。一日目の目的地までまだ先が長い。蛙岩を過ぎ、「大下りの頭」を下っていく。前方に見えるはずの大天井岳もその巨大な斜面はガスの中だ。切通し岩を過ぎ、大天井ヒュッテへの分岐に着く。ここまで登山口より8時間。皆疲れているはずだが「このまま小屋に」という人はいなかった。全員、大天井岳を目指す。大天荘に着き、空身で頂上に向かう。展望がない中で記念撮影。「さっき槍が少しみえました。」と頂上にいた女の子が言う。今日はまず無理だろうと思っているのに期待を抱かせるが、雲が切れる様子はまったくなかった。歩き難い大天井岳の南側を巻いて15:30、やっと一日目の宿に着く。

翌朝、「今日は雨の心配はいらないよ。」と言って大天井ヒュッテ支配人の小池さんが送り出してくれたが雲は多い。牛首展望台の巻き道を通り、展望がきくビックリ平に出る。「ガスが多くてびっくり！」と誰かが笑わせる。喜作新道、快適な稜線散歩のはずが今日も展望なしか……。無意識に移した視線に影が浮かぶ。誰も気付いてない。小槍を背負った槍ヶ岳の姿がはっきりしてくる。足が止まり歓声があがる。ガスが次第に晴れ、視界は北穂、前穂高まで広がった。「感動が大きいね、今まで見えなかった分。」暫くは立止まって写真を撮ったり、眺めたりが続く。赤岩岳の山頂は踏まず、お花畑の斜面を進む。ヒュッテ西岳の手前から道を別け、西岳頂上に立つ。槍に向かってせり上がる東鎌尾根の険しい稜線が見える。ヒュッテ西岳まで下りて休憩をとる。指示がでてストックを仕舞った。東鎌尾根に入る。ハシゴや鎖の登下降が続き、最低鞍部の水俣乗越まで下る。ここから槍ヶ岳山荘まで標高差600mの登攀が続く。ガスが晴れると夏空のように日差しが強い。ヒュッテ大槍を過ぎ、殺生ヒュッテからの分岐で播隆祭実行の僧侶一行(播隆隊)と出会い、再会の挨拶を交わす。眼前の槍ヶ岳は真つすぐに聳え、大きく迫る。槍沢からのコースと合流し、13:30槍ヶ岳山荘に着く。穂先へのルートには多くの登山者がとりついていて。早々に荷物を置いてこれに続く。展望はなかったが、頂上は大勢の登山者でいっぱいだった。播隆祭は夕食後19:00から始まった。槍ヶ岳山荘穂苺オーナーの挨拶に続いて玄向寺住職の播隆祭にまつわる話を聞く。ゲスト山岳ガイド角谷さんの話が終わると席を立つ一般参加者が多かった。結局、我々ワンゲルが歌ったのは「槍ヶ岳の歌」一曲のみで、20:00には2017年播隆祭は終了。

翌日は槍沢ルートを下山し、上高地バスターミナルで迎えのマイクロバス乗った。今回の播隆祭参加は「表銀座」から東鎌尾根ルートを行ったが、険しい稜線の登下降が続くコースをとるのは天候により判断が難しいと感じた。今回は幸いにも天候に恵まれ、その醍醐味を味わうことが出来た。

参加者：14名（静岡北2、静岡南1、静岡西6、焼津1、県岳連4）

天候：くもり/晴れ

地図：槍ヶ岳・穂高岳

コースタイム：中房温泉登山口 530…合戦小屋 840-50…燕山荘 1000-20…切通岩 1310…大天井岳 1420-30 …大天井ヒュッテ(泊)1530-555…西岳 820…ヒュッテ西岳 845-55…水俣乗越 955-1005…ヒュッテ大槍 1230…槍ヶ岳山荘 1330(槍ヶ岳登頂・泊)1510-550…槍沢ロッジ915-30…横尾 1055-1110…徳沢 1205-15…明神 1255…バスターミナル 1350
＝静岡

記録：静岡西支部 堀米



西岳からの槍ヶ岳



槍沢からの槍ヶ岳



東鎌尾根を行く



赤岩岳手前



↑ 播隆祭



← 播隆祭閉会后